

物流対策ワーキンググループ

■ 趣旨・目的

- 社会状況や経済環境の変化に柔軟に対応できる輸送環境の実現のため、トラック輸送の効率化や農産物等の安定的な輸送に資する鉄道貨物輸送の確保、海上輸送における定期航路の航路拡大、関係者の連携による輸送の効率化や輸送モード間の連携強化等の取組が重要。
- 本道における安定的かつ効率的な物流体制の確保に向けて、物流事業者等のほか経済団体や産業団体等の荷主との連携により、鉄道貨物輸送を含めた物流のあり方など本道の物流対策について検討を行う。

「検討項目」

- ◇ 各輸送モードにおける現状・課題の整理・共有
- ◇ 将来的な輸送方法の検討（ケーススタディ）
- ◇ 今後想定される新たな課題への対応検討 など

■ メンバー

学識経験者：北海道大学大学院工学研究院 岸准教授（座長）

自動車輸送：北海道トラック協会

鉄道輸送：JR貨物、北海道通運業連盟、北海道通運業連合会

海上輸送：北海道港運協会、北海道船主協会連合会、北海道旅客船協会

航空輸送：札幌国際エアカーゴターミナル

荷主関係：ホクレン農業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会

経済団体：北海道経済連合会、北海道商工会連合会

行 政：北海道運輸局、北海道開発局、北海道

■ 調査・検討の進め方

- 基礎調査（輸送能力と貨物量等の把握）
 - ・ WG構成員や物流事業者、荷主等からの資料提供やヒアリング等による情報収集を実施し、各輸送モードの輸送能力や、港湾等のインフラの状況及び北海道に発着する貨物量（品目・発着地・輸送機関等）を把握
- 検討課題の抽出
 - ・ 物流対策WGで挙げられた課題について優先度等を勘案し検討課題を抽出
- ケーススタディの実施
- 検討結果取りまとめ

基礎調査：各輸送モードにおける輸送能力、貨物量の把握



抽 出：課題について優先度等を勘案し検討課題を抽出



ケーススタディの実施



検討結果の取りまとめ

■ 第1回WG開催

- 基礎調査の進捗状況等を勘案し開催

■趣旨・目的

○台風や大雪、地震といった重大な自然災害等による交通障害発生時において、観光客などの交通利用者が安心して行動できるよう、わかりやすい交通情報の提供や複数の交通モードが連携した対応に向けた検討を行う。

「検討項目」

- ◇利用者目線に立った交通情報のあり方
 - ・SNS等を活用した交通情報の提供に向けた検討
 - ・情報の一元化に向けた手法の検討
- ◇交通障害時における交通モード間等での連携体制の確立
 - ・交通障害時に関係者が情報共有できる体制確立に向けた検討 など

■メンバー

学 識：北海道大学公共政策大学院 石井客員教授（座長）
自動車：道バス協会、道ハイヤー協会、レンタカー協会連合会、東日本高速道路(株)
海 上：道旅客船協会、道船主協会連合会
鉄 道：北海道旅客鉄道(株)
航 空：全日本空輸(株)、日本航空(株)、(株)AIRDO
経 済：道経済連合会、道商工会議所連合会
観 光：観光振興機構、日本旅行業協会、ホテル旅館生活衛生同業組合
行 政：北海道運輸局、北海道開発局、新千歳空港事務所、札幌管区气象台、北海道

■開催状況

第1回：令和元年7月30日（火）13:30～15:05

○議 題

- ・SNS等による情報発信や外国人旅行者への情報提供など、前回議論を踏まえた取組の方向性について
- ・各団体における取組状況について

○意見交換（主な意見）

【情報発信】

- ・災害時等における迅速な情報伝達であるSNSの積極的活用や、外国人旅行者に対応するためのホームページ等の多言語化など、情報発信の強化に向けて取り組んでいく。
- ・交通情報を一元化した北海道旅の安全情報サイトのアドレスをパンフレットに掲載するなど、サイトの周知に努めている。
- ・時刻や路線情報などのオープンデータ化を推進するため、バス事業者などを対象とした研修会を開催するなどの取組を進めている。
- ・外国人旅行者向けに、避難所や交番などを示す統一的なマークがあればよいのではないか。

【連携・対応強化】

- ・「災害時の外国人旅行者への情報提供ガイドライン」を着実に実行するためにも、今後も連携して災害時の訓練を実施していく必要。
- ・不測の事態に備え、非常用電源の確保・配備を進めていく。